

# 武蔵野市レジ袋削減会議

## 第9回議事録

実施日時	平成21年9月30日(水) 2時から4時
会場	市役所西棟411会議室
参加者	大江 宏、野田 浩二、川添 勇二、松井 玉、濱中 洋子、富岡 光、加藤 慎次郎、白石 ケイ子、南 みずほ、渡部 敏夫
欠席者	保母 錠治
事務局	ごみ総合対策課減量資源係 綿貫係長、松木主任、古林環境政策専門委員、パシフィックコンサルタンツ(株) 雨宮、君島
配布資料	資料1…麦わら帽子実験レジ袋辞退率の推移 資料2-1…京王ストア抽選会報告 資料2-2…9月レジ袋辞退調査 資料3…グルメシティ抽選会報告 資料4…京王ストア聞き取り調査(速報) 資料5…グルメシティ聞き取り調査(速報) 資料6…境商連ファミリースタンプ抽選会報告 資料7…キャンペーン日程
傍聴者	1名
次第	1.開会 2.資料確認 第8回会議録について 3.議 事 (1) マイバッグからはじめるプチエコキャンペーンについて ①麦わら帽子1円バックキャンペーン報告 ②京王ストア抽選会報告 ③グルメシティ抽選会報告 ④聞き取り調査報告 ⑤境商連「エコ・スタンプラリー」抽選会報告 (2) その他 (3) 今後の日程について ・10月の会議日程 10月29日(木) 午後2時~4時

## ○開会

### ○確認事項（事務局）

①第8回会議録について

②資料確認

- ・資料1…麦わら帽子実験レジ袋辞退率の推移
- ・資料2-1…京王ストア抽選会報告
- ・資料2-2…9月レジ袋辞退調査
- ・資料3…グルメシティ抽選会報告
- ・資料4…京王ストア聞き取り調査（速報）
- ・資料5…グルメシティ聞き取り調査（速報）
- ・資料6…境商連ファミリースタンプ抽選会報告
- ・資料7…キャンペーン日程

### 議事

(1) マイバッグからはじめるプチエコキャンペーンについて

事務局：①麦わら帽子1円バックキャンペーン報告。

◇6月1週目から4、5週目は、辞退率20～30%で推移。

◇7月3日、4日あたりから浸透し、約50%台。

◇8月は60%を超える日もあるが、平均して50%台を推移している。

◇9月はほぼ50%台を超えている。一番多い日は、68.9%。

事務局：②京王ストア抽選会報告。

◇9月16日（水）10時～18時 晴れ

◇参加人数 745人（ポイント5倍デー）。

◇9月の辞退率については、レジ員さんが正の字でカウント。

◇当日は10時から18時に関しては、抽選会に参加した人数で辞退率を把握した。

◇抽選会日は通常よりも高い辞退率となり、合計で37.8%。

◇抽選会日以降は、20%台に低下。

◇市報など広報を見て参加された方が多いという印象。

◇普段は、開店から1時間は高い辞退率が出ている。20時以降は低い。

③グルメシティ抽選会報告。

◇9月18日（金）10時～18時 曇り

◇参加人数 272人

◇9月の辞退率は、19%台が多く、平均19.4%

◇当日は、辞退率24%と普段より5%アップ

◇近所の人、勤務地が近い方がお弁当を買いにきている印象

◇レジ袋をリユースしている方が多く見られた

◇若年層が多く、仕事されている方が来店している印象

◇24時間営業のため、コンビニ的に利用されている方も多い

◇キャンペーン前（4月～8月）の辞退率は、ほぼ同じ18%台

◇9月は、平均19.4%ということでキャンペーンの効果が見られた

事務局：④聞き取り調査報告。

◆京王ストア（9月16日 10時～18時）聞き取り調査報告

◇出入り口で2名体制

◇100名目標

◇レジ袋使用の方は、回答を断られることが多くマイバッグの方の割合が多い

◇女性8割

◇60代、70代、80代が大半

◇近所の方、自転車、徒歩の方がほとんど

◇マイバッグの方 7割、約43%

◇レジ袋を断る頻度→良く断るが7割程度

◇いつもマイバッグを使用している方→8割

◇7、8割の方がマイバッグ、レジ袋に配慮されている

◇マイバッグを持たない理由について→レジ袋が必要（ゴミ袋として使用）

◇スタンプカードを持っている方→76%、評価は「良い」が8割以上

◇レジ袋有料化について→7割の方が肯定的な意見

◇マイバッグを持つきっかけ→ごみを減らしたい、環境のことを考えている、レジ袋があふれてしまう が多い

◆グルメシティ関東（9月18日 10時～18時）聞き取り調査報告

◇女性73%

◇50代以上が大半

◇自転車、徒歩の方が多い

◇マイバッグ45%、レジ袋39%。7%の方が再利用レジ袋を使用

◇半分くらいの方がレジ袋を断り、マイバッグ使用については「いつも」「ときどき」を合わせるとかなり高い割合になる

◇マイバッグを持たない理由→レジ袋が必要（理由：ゴミ袋用）

◇ポイントカードについては、6割の方が「良い」という評価

◇有料化については、66%の方が仕方ない、良い

◇マイバッグを持つきっかけ→「ごみを減らしたい」「環境のことを考えている」

◆両スーパーで感じたこと

◇男性でも3割弱の方が普段からマイバッグを使用されている、浸透している

◇京王ストアでは京王ストアのマイバッグの方を良く見かけ、グルメシティではコンビニ的に利用している方も多い→形態によってレジ袋の使用状況に反映されている

事務局：⑤境商連「エコ・スタンプラリー」抽選会報告。

9月1日～22日の期間中、エコ・ファミリー抽選会協力店一覧のお店で「エコ・チェック」をクリアすると、ハンコを押してもらえ、4個貯まると抽選会に参加可能

◇9月23日（祝） 13時～ 南北2ヶ所

◇参加人数 140 名（北 80 名、南 60 名）

→近辺 22,000 世帯に新聞折込チラシを配布したが、シルバーウィーク中のため人数が少なかった

→初めての試みのため、なかなか浸透しなかった

◇景品はお店の協賛

◇ファミリースタンプ事務局感想

- ・お客様の環境意識が高まった
- ・お店でスタンプを押したり、レジ袋をお断りするという場面で「いいことだ」とお客様から褒められた
- ・参加した商店の環境意識が高まった
- ・今後も是非実施したい
- ・商店会のエコ活動は、直接お店の売り上げにならず、イベント等行うには難しかったが市の協力で行え有意義だった
- ・商店会、お客様の意識改革に大きな一歩が踏み出せた
- ・今までは、市が POP 等を配布する一方通行だったが、今回は行政と商店会が一体となつて行えた初めてのケース
- ・チラシ作成等、市からの予算が出たのがありがたかった
- ・すぐには大きな結果は出ないが商店会の活性化に着実に前進した

事務局：境商連のアンケートについて説明。

スタンプラリー終了後、「境商連ファミリースタンプ「エコ・スタンプラリー」〈協力店アンケート〉」を協力店に配り、市に提出してもらう。

◇キャンペーン日程・内容確認

会 長：プチエコキャンペーンについてご報告いただいた。実施店でもある A 委員にキャンペーンの感想などお願いしたい。

A 委員：抽選に来られた人を見ると、他店の袋を持って買い物に来られている方もおり、袋を再利用していると感じた。自分でマイバッグを作られて買い物に来られている人や、一度家に戻って抽選会に参加している男性もいた。意識付けの点で非常に意義があったと思う。弊社でも昨年の 7 月からチェーンストア協会の指導のもと、会社トータル 30%目標でレジ袋削減に取り組んでいる。店別、月次単位で目標数値を 22%にあげているが、まだ 18、19%である。そんな中でのキャンペーンで、約 1%あがった感じだ。これから、地元のお客様の協力を得ていきながら、30%にもっていきたいと考えている。多摩の団地にある店舗は、地元の方の協力で 45%ぐらいいっている。まずは 30%を目指し、次は多摩の店舗のように 40%と段階的に考えている。山梨の 1 店舗ではレジ袋の有料化を実施しているが、レジ袋辞退率約 70%。残りの 30%は、レジ袋が必要な方が購入されている。有料化は、売り上げダウンというリスクもともなうため、会社としては前に進めない。

会 長：ポスター貼り等をしていただいた副会長と B 委員に感想等聞きたい。

B 委員：お店によっては、のぼり旗の置く場所がない店は断られることもあった。レジに貼る札状のものは、すでにクリーンむさしのものを貼っている店は、新しくなったとすぐ張り替えさせてくれた。貼っていなかった店舗でも、それぐらいならいいと貼らせてくれた。大きいポスターも、クリーンむさしのものを貼っているお店なら快く貼

らせてくれたが、何もないお店だと大きさと断られた。クリーンむさしので1度伺っているお店だと、聞き入れてくれやすかった。市役所として行くよりも市民として行ったことで、受け入れてくれた面もあると思う。

会 長：断られる率と受け入れてくれる率はどのような感じか。

B 委員：半分半分かくらいだ。何も取組みない半分半分かくらいで、既にやっているお店は高い。

会 長：そういうところは、問題なかったか。

B 委員：話をしてくれない店はあった。既に店で取り組んでいるからいいと。実際に行ってみないと分からないということがわかった。

会 長：多くのデータも出していただいた。質問や意見等、この中から読み取り可能なところをご指摘いただきたい。資料1の麦わら帽子は、後半にむけて定着してきているので驚いている。1円の値引きより、潜在的な何かがある今回の「きっかけ」で出てきたと私は見受けた。声かけが有効で、きっかけがあればレジ袋辞退率は60%に届くかもしれない。気づいた点出してほしい。

C 委員：明らかな数字で結果が出ている。レジのスタッフの方の声かけもあるのだろうが、1円できっかけを作った点で、成功ではないか。

会 長：9月で終わりだが、この後の数字も是非見たい。

事務局：1週間ごとだが袋の枚数でカウントしていただけることになっている。

会 長：結果が楽しみだ。これで定着すれば、きっかけを与えたことでこれだけ伸びたということが言える。

A 委員：先週、S区から集合がかり会議があった。S区では約2年前からの条例で、事業者はレジ袋辞退率60%を目標に削減に取り組み、1年6ヶ月ほど経過、条例に該当する約220店舗の中で実際達成しているのは、1割ほどで、残り9割は達成できていない。1割程しか達成できない高いハードルでの条例化はどうかと思う。本来、条例で決まったことは守るべきだが、事業者だけでできる問題でもない。事業者、消費者、市民団体が手を取り合って、同じ気持ちで取り組んでいくことが重要だと感じた。区の会議には、スーパーや一部のコンビニ事業者などで、消費者は入ってきていない。そのあたりのギャップが大きかったという気もした。

会 長：(S区の)事業者説明会の出席状況は。

A 委員：スーパーでも出席していない事業者はあった。220店舗のうち40店舗まで来ていなかったと思う。あと残り6ヶ月で目標60%までもっていくのは至難の業だ。

副会長：S区は世帯数が大きい。武蔵野市の場合は、13万6,700人の市民の数だと思う。狭い範囲の中での運動というのは設定の仕方が違う。武蔵野市の場合はやりやすい。やろうと思えばできると思う。

C 委員：S区の場合は、バックキャストिंगでやってしまったのがよくなかった。60%という数字ありきで、目標をつくったあとのシナリオをつくらなければならない。

副会長：レジ袋削減の旗を立ててからは、10数年経つ。

会 長：貴重な情報をいただいた。それらも参考にしながら武蔵野市の今後をどうするか、考えていくきっかけにしなければならない。

D 委員：麦わら帽子の実験数値はすばらしい。また、商店会では、抽選会参加人数が少なかったとはいえ、前向きな発言や商店会の活性化に着実に前進すると思われる意見があった。日本でもCO<sub>2</sub>25%削減という流れができつつある中で、商店会と行政が一体となって取り組むと、消費者も良いことをやっているということは本質的にわかると思う。

すぐには売り上げに反映しないと思うが、長い目で見ると消費者はそのような選択をするという期待はできる。大型店は全国展開だから難しい面もあると思うが、地域の商店会を活性化させるには1つの方法であり、働きかけによっては、近所の人の賛同も得られると思う。

会 長：商店会は、初めてに近い形でこのようなキャンペーンを行い、今後につながるきっかけを得たというのは大事なことだ。事務局の感想はどうか。

事務局：担当者の方たちの熱意が大きい。今回はエコ活動の第一歩であり、10年かかると言われた。しかし商店会と行政と一緒に取り組むということは、消費者の方も「市報を見た」等、理解してもらいやすい。広報の観点からも効果はあった。今後、このような機会を設けるかは未定だが、前向きに考えてくださっている。また、中央地区商連では「むチュー」をもらおうキャンペーンを9月から11月で行っており、現時点で5人の方がスタンプシールを20個集めて「むチュー」と交換した。しかし、担当の方の話では、既にマイバッグを持っている人が更にキャンペーンということでスタンプを集めているケースが多いのではないかとのこと。これをきっかけに今までマイバッグを持たなかった人が、持ってきているとは読み取れない。こちらも、担当の方も行政と一緒に取り組めて良かったと仰っていた。

会 長：武蔵野市の当初の狙いである「底上げ」、商店会でのきっかけが出来つつあり、重要な点だ。これまで、市民も行政も取り掛かってない部分へ向けて、前向きな回答が得られたわけで、大事にしていきたい。

事務局：小さい商店が独自で企画をし、印刷物を作るというのは非常にハードルが高い。地域通貨「むチュー」は、カードが配布され、レジ袋は要るか確認し、断った方に押すだけでいい。それならばできるということで、この取り組みは良いと仰っていた。

E 委員：商店会の方が、今回、行政に応援してもらったと言っている理由は、どういった点からそう感じたのか。今までも接触はあったと思うのだが、今回に限ってそういうことを仰っているのは、市報等で行政が全面に出てきたからか。

事務局：単なるお願いではなく、広報と印刷代を市も負担している。また今回は広報を大々的に行ったので「市報を見た」「チラシを見た」というお客様が非常に多かったとのこと。フラッグや横断幕等、多くの場所で掲載されている武蔵野市のイラストを入れることで、注目もされた。他にも「良いことをやっている」という評価をお客様がしてくれ、直接この事業に対する評価を実際の声として受け取れた。

事務局：このキャンペーン企画段階では、ごみ総合対策課から提案してから、境商連のスタッフでも企画検討ができたという過程が、一緒に取り組んだという実感につながり良かったのでは。

事務局：今までは、行政がお膳立てをする形だったが、ポスター等も、支払いは行政が行うので自由に作成してくださいとお願いした。自分たちが企画するという意識に繋がったり、自由度をもたせた点がよかった。新聞折込チラシも商連で作った。

会 長：今回は参加意識が全然ちがう。事業者だけ、市民だけの個別ではなく、行政三位一体ということだ。

事務局：協働で各々が役割をもってお互いに知恵を出し合うという取り組みだ。

副会長：これからも継続することも考えないと、イベントで終わってしまう。今回は、商店会にもお金を出されているが、どのくらいか。

事務局：全部を含めても200万円弱。なるべく地域の事業者さんに発注し、地元のみなさんに

お任せした。

副会長：7、8年前、商店会 50 周年記念の時に、マイバッグ作成、10 円バックということをやった。その時は袋代 500 万円、キャッシュバック分で 500 万円、1000 万円かけて行った。それに比較すると今回は、経費も少なくお互いに取り組んでいるという意識が出たと思う。

C 委員：B 社と A 社の調査は、当日、レジ袋をもらった人ともらわない人の項目はあるのか。  
事務局：ある。レジ袋利用かマイバッグか判別した項目がある。

C 委員：実際に辞退した人が 2 割か 3 割なので、全体の平均ではなくてレジ袋を辞退した人の意見になってしまう可能性がある。辞退した人としなかった人を分けて集計すると分かりやすい。

副会長：私どもでも有料化の賛成反対のアンケートを行ったが、レジ袋をもらっている半分以上の方が、アンケートは避けられる。

C 委員：質問項目があるのなら、2 つに分けて集計すればよい。

事務局：そのように集計はできる。それによって傾向も変わってくると思う。

C 委員：レジ袋が必要だからもらう、マイバッグは持たないというのは、その場でレジ袋をもらった人の意見だと思う。

事務局：いつもお持ちになるという回答者でも「ほとんど持っているがレジ袋も必要だからもらう」というグリーンの人もかなりいる。有料化の質問でも、レジ袋を持つ持たないに関わらず「良い」という傾向もある。また、マイバッグの方でも「有料化は反対」という意見も。しかし、ご指摘のとおり、振り分けて傾向チェックを行いたい。

会 長：A 社は 99 件、B 社は 105 件か。アンケート数はもう少しほしい。200 件くらいはほしい。

事務局：場所の制約があり難しい。立ち止まると邪魔になってしまう。

A 委員：別件だが、店舗改装前等に 200～300 件くらいのサンプル聞き取りを行う。その時は、どこの店舗でも同じような内容が記入してある。1 度、無作為に選んだ 7～8 人の地元の希望者に来ていただき謝礼付きで聞き取りしたが、こちらの方が効果があった。短時間で聞こうとしても正直なことは言わない。このような方法も検討したらどうか。200 件のサンプル調査よりも本音が出てくる。

事務局：調査の感想としては、キャンペーン中の横で聞き取りを行うので、レジ袋の方も「普段はマイバッグを使っている」と答えることもある。

会 長：「レジ袋が必要だから」との回答が圧倒的に多く、理由としては「ゴミ袋用」とある。これは、武蔵野市でなくても出てくる意見だと思う。家庭ごみ有料化でない自治体では、これより多くなるのでは。この辺はどのように考えたらいいか。

C 委員：個人的にはレジ袋が必要ならもらってもいいと思う。結局、必要ならば購入する。ごみになるわけでもないし、CO<sub>2</sub>も増えるわけでもない。

会 長：実際、ごみ袋の小分け用に使われて可燃ごみで出てくる。

副会長：生ごみを溜めずに出すには、使わざるを得ない。その辺も考えていかなければいけないと思う。資源物を入れる袋としても使われている。言い訳としては、それが大きいと思ったのだが、答えた方もやはり生ごみだろうか。

A 委員：マンションでも瓶を出す時には、集積所に行くまではポリ袋に入れてそのまま置いている。そういう部分でも必要なのだろう。

副会長：以前、瓶のまま置いたら収集されなかった。袋に入れたら持っていった。

事務局：レジ袋削減の取り組みに対し、プラスチックや瓶、缶を出すのに袋で出さなければならぬのに困るというクレームを頂く。その際は、レジ袋をもらって下さいと応えている。この問題は行政として大きな課題として考えなければならない。

E 委員：A 社のレジ袋辞退調査は面白い資料だ。開店時が最も辞退率が高い。これは客層に主婦や年配者が多く、18 時以降に辞退率が落ちるのは、若者が出向くからか。

副会長：勤め帰りのサラリーマンや男性が多くなるからではないか。

事務局：マイバッグキャンペーンの午前中は、ご高齢の方もたくさん見えられた。朝一番に買い物に行かれる習慣の方が多い。

C 委員：16 日の辞退率が特にいいのは、抽選をやったことが原因か。それとも声かけ等か。

副会長：抽選だと思う。

C 委員：16 日以降の他の日は、声かけはしているのか。

副会長：していないと思う。ポスターを見てくれているのだと思う。

事務局：A 社では、G 委員によると辞退率が去年と比べて伸びている。去年は 20%から 21% ぐらいで推移していたのが、今年は 4 月から約 25%に伸びている。理由として、特典の 2 ポイントが多い中で 5 円のスタンプは魅力であり、スタンプカードを作る人が増えているからではないかとのこと。

事務局：キャンペーン期間中はスタンプを二つ押すので余計に増える。

C 委員：客数を見ても土日よりも来ている。売り上げも良かったのではないか。

副会長：水曜と土曜が買い物の金額により 5 倍のポイントがつく。水曜は定着している。

会 長：2 ヶ月後はどうなるか、最終的なデータが楽しみだ。麦わら帽子に関しては終わった後のフォローがどうなっていくのか気になる。この会議の委員任期は、来年 1 月末で、キャンペーンが終わるのが 11 月末。その後に結果を見た上で、分析評価をしたいと思う。それとともに、このレジ袋削減検討委員会として、減量協議会や行政へフィードバックしなければならない。どのような形でこの会の総括をするかということが残されているが、残り短い期間だ。それを踏まえ、この中からどのようなことが言えるのか、また言うていくべきか、形を明確にしていかなければならない。

事務局：最後に提言、報告書を出していただき、それを受けて実際に行政が施策をうっていくことになると思う。このキャンペーンの結果等を踏まえ、報告書を作っていただければありがたい。委員の皆さんの了解を得て任期を延ばすことも可能だ。

会 長：結果を分析評価するには、少し慌しい。

副会長：前回、B 委員から提案のあった「共通カード」について検討し、事務局から出された案で「スタンプカード 30 個でごみ袋 1 本 (5ℓを 10 枚) と交換」という方法の報告があった。しかし、前提条件ということが理解しにくい。その交換した袋だけでごみを出すという点が理解しにくいので、もう少し検討していただかないとわからない。併せて、C 委員から報告のあった C 社の実験に興味をもった。結果についてそれなりに効果があると見受けた。事業者懇談会の中でスーパーから「今年は不景気で提案にはのれない」と言われたが、有料も値引きも取り組めないという中で「声かけ」はお金がかかるものではない。尚且つ、行政とみんなが協力し行ってきたことも含めて、「声かけ」なら協力できるのではないか。そのような意味で今回の実験、キャンペーンは良かったと思う。コンビニやスーパー、ドラッグストアや一般商店等、声かけをどこでもきちんと行うよう徹底し、共通のこととして提案したらどうかと思う。目標 60%ではなく、それぞれに現状とプラスアルファの目標を出してもらい、半年や一年と期

間を決めて、目標を達成したかしないかを公表していくという協定の結び方はいかがか。多摩市では有料袋をバラ売りをしており、ごみ袋を購入して品物を入れるという方法も定着させていきながら、必要のない袋は減らすことを進めたい。それぞれの皆さんが今回のキャンペーンをどのように見、次回にどのように繋げていくのかという点は、次回提案いただいてもいいと思う。

会 長：実験などで、底上げを検証し、評価できるのであれば、その底上げを確固たるものとし、ウェイト的・内容的にも武蔵野市スタイルが実効性を持つという点に、再度スーパーの全面的な協力が必要となってくる。それに向けて経済状況等を踏まえて、声かけのレベルであっても参加していただかなければならないという意見であった。私も共感している。この先の取りまとめに向けて、更に当初の狙いであった点へ近づけるためには、実態調査やキャンペーンを踏まえてどうしたらよいかを考えていただきながら、議論していきたい。A社のアンケート中で、「レジ袋を減らす目的を知っているか」という項目では、回答者は少ないが「地球温暖化防止のため」が多いことに驚いている。「ごみを減らすため」よりも遥かに大きく出ている。B社のアンケートでも「地球温暖化防止のため」が一番出ている。「ごみ問題」というよりは、我々が訴えようとしている環境意識・ライフスタイルに案外大きく繋がっているという読み方もできる。今、厳しい経済状況の中だが、ささやかだが協力できるという市民の意識が増えてくる可能性が強い。それぞれに目標設定をしてもらいトライし、それに上乘せしていくという努力を、事業者だけではなく、市民も、必要だと思う。レジ袋辞退率にも出てくれば、スーパーを含めた形で底上げの大きな成果が出てくるのだと思う。

E 委員：副会長が言われたことは、その通りで声かけも大事という提案でまとめることはいいと思う。その前に有料化も、値引きも出来ないというのは、提言に入れることが出来ないという意味か。

会 長：今回の実験について、だ。キャンペーンのときにどう参加するかということ。

副会長：懇談会のときに、スーパーのほうからそのような答えをいただいたということ。

E 委員：例えば、市に有料化の条例を求めるということもありか。

副会長：そうだ。

E 委員：データをポジティブに評価するかネガティブに評価するか、そこが一番の悩みどころ。

今回も声かけという意味ではポジティブに評価をされた。やはり有料化は、政策ツールとしてはかなり重要だと思う。それができない、むずかしいこともわかってはいるが、この報告書を見たときに必ず富山県など有料化事例の数字と比較されると思う。それはわかってはいるがというものが、何かあるといい。

副会長：今の段階でできることを出しながら、2年後には有料化という提言もできる。今は、やりながら皆さん実感として決定しますというものをもった方がよい。

会 長：各地を見ると、スーパーに依存しての有料化だ。そうではなくて、ここで今目指したものは、底上げして全体が意識を持ってきて有料化し、それが参加主体も多数になってきて、有料化を目指すということになったらすばらしい。その時には、スーパーだけではなく、商店街等さまざまな個店も含めて、参加してもらえる土台になるような条件が出てきた場合、有料化自体が三位一体的なものになってくる。今までの例では、やれるところからという感じだけだ。

A 委員：スーパーの立場から言うと、売り上げ高の1%くらいがやっと利益が出るという状況

だ。その中レジ袋や包装紙等の包装用消耗品というのは、0.5%前後だ。売り上げの0.5%前後。だから本来としては有料化はありがたい。しかし一方では、K市で他スーパーがやめているように、有料化したときに他にお客さんが他に流れてしまう。有料化したときに大事なことは、売り上げと経費のバランスだ。経費は浮いたが、それ以上に売り上げが落ちてしまったら、また元に戻さざるを得ない。だから条例化は難しいだろう。売り上げが下がったら、死ぬか生きるかだ。本音で言えば、やりたいのだけれど、それ以上に売り上げが落ちるのが怖い。

副会長：今、有料化はだいたい5円。しかし5円取る必要はないかもしれない。効果を狙って5円にしているのだろうが、このようなキャンペーンや声かけをしていく中で、そんなにとらなくてもいいとなるのではないか。武蔵野市全体でやるということが、やはり大事で、あちらからこちらに流れることも市境は、あるかもしれないが、そんなに高いお金ではなく、しかも取り組みながらの結果としてそこに結びつけば、かなり違うのではないか。やってみないとわからないが。

A委員：関東圏はスーパーの数が非常に多いから、競争が激しい。

事務局：スーパーでレジ袋を配るのも商業活動の一環だと思うが、行政側で有料化の条例を作るほうがよいか。行政が手を突っ込んではいけないと思っていたが。

A委員：条例や法律で決まってしまうたら、企業はコンプライアンス上、従う。

事務局：条例の対象エリアは武蔵野市内だけとなり、恐らく罰則は付けようがないし、強制力もあまりないが。

A委員：しかし、条例化になったら民間事業者は守る義務がある。

事務局：S区もそうだが、条例でも協定などを結んで、ある一定のレジ袋使用枚数以下の店は対象外となる。

A委員：そうだ。S区の対象は220で、行政に計画書を出している。

事務局：私の個人的な意見としては、レジ袋を無料配布するのも、袋に会社名を入れるのも、商業活動の一環、サービスであると考える。条例はあくまでも「理念条例」で、アドバルーン的なものでしかなく、非常に難しい。タバコのマナーアップと同じだ。

C委員：会社と個人は違う。会社はコンプライアンスがあるから。会社としては、条例ができたなら従わざるを得ない。

会長：あとは、マーケットが問題だ。市場対市場の問題だから、そういうものに対する圧力がかかる。消費者行動として、あそこの店は達成していない、協力していないとなったら、条例よりも市場からの圧力が大きくなる。そのような面で条例ではきついと思う。

事務局：条例の場合は、東京都のレベルで取り組むとよい。条例を作るとなったときに、市で独自にやるということではなくて、東京都を巻き込まないと進んでいかない。市独自の条例は、基本的に疑問を持っている。

A委員：チェーンストア協会とどう絡むかということもある。チェーンストア協会は30%に削減しましょうと、各社それで目標を決めている。数字が2つも3つもあると困ってしまう。

会長：他に何かあるか。

F委員：1円キャッシュバックの店が7件くらいあるのだが、タバコだとカートの時か。1個買っても1円キャッシュバックか。

事務局：カートだ。

F 委員：タバコの人には袋はいらない。テープをつけても怒られる。私たちもお店で相談し、家庭で不要な立派な紙袋をお店のレジに集め、レジ袋を要らない人には、これを使ってくださいと書いて貼ろうと思っている。1 円キャッシュバックも、値引きもできないとなると、再利用はどうかと考えた。とりあえず、お店のパートさんたちに持ってきてもらうのと、お店のお土産の紙袋は余るので、それをレジに置き、レジ袋ではなく再利用でいい方は使ってくださいと。またそれが一歩進むと、家庭の不要な袋はここに持ってきて使いまわしをしようというのはどうか。コンビニは、チェーンなので一店が余計なことをやると大変だから、本当に小さなエコからやってみたらどうか。10 月 1 日からはじめたい。

会 長：ものすごくいいアイデアだ。

F 委員：お店のパートさん達からも賛同を得た。クリーニング店で、デパートの紙袋をお客さんからもらい、次のお客さんに渡していることから、ヒントをもらった。きれいな紙袋ならこれでいいというお客さんもいるのではないか。結局そういうものを使ってくれるお客さんは、買い上げ点が高いお客さんだから目視をしやすい。時間帯は、お昼過ぎや夕方以降になると思うが、実験的にやってみようと思う。

会 長：家庭で使いきれない捨てきれない紙袋があると思う。他でも拡大できるアイデアだ。

副会長：フリーマーケットでは、みなさん紙袋を持っている。

F 委員：以前紹介した大学生のリユースバッグに似た取組みだが、くたびれたら捨てるという方向で考えている。

会 長：ありがとうございました。本日は、中間報告をいただきながら次回以降にむけての議論を行った。次回また継続して取りまとめに向けた議論にしていきたい。

## ○今後の日程

今後の会議日程 10 月 29 日（木）午後 2 時から

閉 会

以上

# 武蔵野市レジ袋削減会議

## 第 10 回議事録

実施日時	平成 21 年 10 月 29 日（木） 2時から4時
会場	クリーンセンター見学者ホール
参加者	大江 宏、野田 浩二、川添 勇二、保母 錠治、松井 玉、濱中 洋子、加藤 慎次郎、白石 ケイ子、南 みずほ、渡部 敏夫
欠席者	富岡 光
事務局	ごみ総合対策課減量資源係 綿貫、古林 パシフィックコンサルタンツ(株) 雨宮、君島
配布資料	資料 1…麦わら帽子実験レジ袋辞退率の推移 資料 2…キャッシュバック店舗報告 資料 3…エコスタいらや抽選会報告 資料 4…店頭キャンペーン報告 資料 5…聞き取り調査報告 資料 6-1…スーパー辞退率の推移 資料 6-2…9 月レジ袋辞退調査票（京王ストア） 資料 7…薬剤師会声かけ実験
傍聴者	1 名
次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.開会</li> <li>2.資料確認</li> <li>第 9 回会議録について</li> <li>3.議 事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) マイバッグからはじめるプチエコキャンペーンについて <ol style="list-style-type: none"> <li>①麦わら帽子 1 円バックキャンペーン報告</li> <li>②キャッシュバック店舗報告</li> <li>③プチエコ抽選会「エコスタいらや」報告</li> <li>④店頭キャンペーン報告 「イトーヨーカドー、プラザスタイル、ビッグ A、サミットストア」</li> <li>⑤聞き取り調査報告</li> <li>⑥スーパー辞退率</li> <li>⑦薬剤師会声かけ実験</li> <li>⑧境商連協力店舗訪問報告</li> </ol> </li> <li>(2) 今後のまとめに向けて</li> <li>(3) その他 <ol style="list-style-type: none"> <li>①任期の延長について</li> <li>②次回以降の会議日程について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11 月の会議日程 11 月 27 日（金）午後 2 時～4 時</li> <li>・ 12 月の会議日程 12 月 18 日（金）午後 2 時～4 時</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>

## ○開会

### ○確認事項（事務局）

①第8回会議録について

②資料確認

資料1…麦わら帽子実験レジ袋辞退率の推移

資料2…キャッシュバック店舗報告

資料3…エコスタいらや抽選会報告

資料4…店頭キャンペーン報告

資料5…聞き取り調査報告

資料6-1…スーパー辞退率の推移

資料6-2…9月レジ袋辞退調査票（京王ストア）

資料7…薬剤師会声かけ実験

### 議事

(1) マイバッグからはじめるプチエコキャンペーンについて

事務局：①麦わら帽子1円バックキャンペーン報告。

◇8月、9月は50～60%台を推移している。

◇9月の最終週は、一番高い数値で69%まで上がっている。

◇6月→27.3%、7月→51%、8月→55.7%、9月→57.4%と実験としての効果は出ている。

◇10月に入ってから1円バックを実施している。

②キャッシュバック店舗報告

◆JA武蔵野新鮮館における9月レジ袋辞退率報告。

◇50%台を推移している。

◇もともとエコポイント3ポイントを実施しているため、1円バックの効果が出ているかは不明。

◇日によっては、87%いく日もあるが40%の日もあり傾向を読むには難しい。

◆キャッシュバック店舗について。

◇八百銀、藤野米店、高知屋、金井米穀店、みどりやたばこ店で1円キャッシュバックを行っている。

③プチエコ抽選会「エコスタいらや」報告

◇抽選会日：10月2日（金） 10時～18時 雨。

◇参加人数 460人

◇辞退率：抽選日1週間前→24.4%、抽選日（10月2日）→28.6%、

8月平均→19.6%、9月平均→21.6%

◇当日は、通常日より大きく辞退率がアップした。

◇午前・午後問わず平均して辞退率が高い。

◇当日の辞退率（10時～18時）は平均49.5%と前日の辞退率28.6%に比べて非常に高い→抽選会の効果、時間帯による辞退率の違いが影響か。

会長：ありがとうございます。夏からのキャンペーンについて、中間報告などいただいた。

中身について質問、感じたこと、意見があれば出してほしい。

A委員：資料3のA社の結果で、抽選日の時間ごとの辞退率は49.5%、1日でまとめると28.6%とあるが、19時以降は相当落ちるのか。

事務局：キャンペーンの時間帯である10時から18時以外はやはり下がっている。24時間営業で深夜の分も入っているが詳細は不明。

会長：資料1の食品小売の麦わら帽子は、アンテナショップ的な役割もあるが、キャンペーン3ヶ月間のレジ袋辞退率の推移はすごい。30%程度からスタートし定着したことがとても評価できる。9月には70%近い日もあり、平均で57.6%。1円キャッシュバックで、目標の60%近いところまで届きそうだ。

副会長：男性が増えた点に興味がある。この時間帯はどこでも難しいところだが。

会長：営業時間は何時か。

事務局：10時から18時ころだ。

会長：そうするとA社で辞退率がよかった時間帯と同じで条件もいい。

B委員：資料7の確認だが、A薬局は声かけをしたから100%の辞退率なのか。B薬局は声かけをしないが90%を超えているのか。

事務局：A薬局が100%で、B薬局が90%と高い数値だということまでしか読み取れていない。推測だが、もともと紙袋のみを使用という習慣の店が多いかもしれない。

B委員：このあたりの薬局は、チェーン店ではないか。

事務局：病院の処方箋を出している調剤薬局だ。

会長：薬局では紙袋では渡しているがレジ袋は渡していないのではないかということか。

事務局：直接うかがった時には、レジ袋を渡していない薬局が多かった。

副会長：一般的には、錠剤等の薬を入れる紙袋をさらにレジ袋に入れる。

会長：こちらの薬局のグラフで線引きしてあるのは何か意味はあるのか。

事務局：変化なし、もしくは9月のほうが成績の悪いところが線の上にある。9月がより成績のよいところが下にある。事務局からもあったように各店舗のもともとの習慣に応じ、だいぶ差があったのと、声かけがあまり関係のない店舗もあった。全体的にはアップしている。

C委員：これは市内の全部の店舗ではないか。

事務局：全部ではないが薬剤師会に加盟している店舗で協力いただいた。

会 長：他に質問等はあるか。気づいたところ、不明なところ、次回までにチェックできるので異常な数値等気づいたところ確認したい。(2)に入りたい。今後のとりまとめにむけての方向付け、意見をいただきたい。事前配布資料だが、事務局のほうで確認をお願いしたい。

事務局：「第9回レジ袋削減会議まとめ」という表をご覧いただきたい。前回、第9回の会議で皆様からの意見と考察をまとめている。考察・提言・今後の予定の3つに分類をし、まとめた。考察は、聞き取り調査結果やプチエコキャンペーンから整理したもの。今後、当初のねらいでもある底上げの推進について、キャンペーンをふまえどのようにしていけばよいかを議論いただきたい。また12月以降のキャンペーンについては、今回のプチエコキャンペーンがブレないように考えていきたい。会議の提言を受けて、市民・事業者・行政が協働でできる施策を展開していきたい。

会 長：あと2回ほどで提言に向けた中身が出てくるようにしたい。そのための1つの取りまとめ方法として、いろいろな実験や聞き取り調査を踏まえた事実調査と分析、そこから引き出す提言を取りまとめていきたい。この事前配布の中間的な枠組みである。今日の報告は一番左のプチエコキャンペーンの枠内に該当する。考察も多く出ているが、今の報告の段階で、意見を是非出していただき、方向付けの柱にしていきたい。

副会長：考察にもあったが、3ヶ月間のキャンペーンというのは非常に大きな意義があった。辞退率60%も可能ということかと。有料化は難しいが目的をはっきりし、協定書的なものを示し進めることが重要だ。そこまでにいくまでの時間はあると思うが、事業者懇談会も開かなければならない。3ヶ月間のキャンペーンが終わった後、何らかの形で継続していくことと、マンネリ化しないようにするのは大変難しいと思う。そのあたり皆さんの意見を聞きたい。前回、B委員から「最終的に有料化」が一番いいのではと言われた。私もそう思うが今の不景気の状況が元に戻らない中では、やはり難しい。他府県では県全体で取り組んでいる。特に東京は、市境というところで非常にやりにくい部分がある。東京都が無料配布の中止を出してくれると取り組みやすくなる。スーパー皆が一斉にでないといけないと言っているなか、**有料化は難しいだろう。当面は協定を結び、各々の事業者の目標を示してもらうことはできないだろうか。**

会 長：当初ねらいとした武蔵野型のスタイル、市民の環境意識を変えていく方向、レジ袋辞退率60%を市全体でめざせば一番いい。トータルで底上げを考えることがひとつの方法。底上げについて、この効果、可能性についてはいかがか。もうひとつ、麦わら帽子の値引き実験とても意義があった。キャッシュバックの金額幅より、きっかけとしての重要性が確認された。消費者意識への影響があり、3ヶ月で定着した動きがある。底上げにつながるか、有料化が必要となるか。

D委員：声かけの効果あったこと実験で検証できた。ただ、声かけだと40%が頭打ちかもし

れないので、60%目指すには、プラスアルファ必要では。事業者は全業態一斉というのが条件で、コンビニは本部主導であるし。できるところからやるのがいいのか。現在、百貨店も撤退するなど厳しい状況はスーパー以上。そんななか事業者をまとめるのはたいへんだらう。

副会長：これまでのこの会議での取り組みは、とても丁寧な取り組みで、他にはそうなかなかない。無駄にしたくない。小さな市だからできたこと。いい形で引き継ぎたい。

A委員：3年前の辞退率は11%、現在17%。レジ袋を減らそうというお客様が確実に増えているのは間違えない事実。次に、肝心なのは、有料化ではS区の条例化がありE社が先行ではじめたがそれでも進んでいない。H市も一度まとまったがうまく進まず、S2区も有料化方針ではない。一方、地方では有料化始まっており、東京は乗り遅れた。東京ならではの難しさがある。まだまだ有料化に反対の人が多く、事業者から言えば自分のところだけは導入できない。現段階では有料化の協定か、条例かとなるが、とりまとめるのも難しい。話が戻るが、消費者の意識が変わりつつある流れがあるのも事実であり、せつかくのこの流れを逃がさないようにしたい。武蔵野市は**できるところから削減にむかっていくことがよい**。武蔵野市には幅広くコンビニの方なども会議に参加しているし、現段階では有料化方針でないので、**ひとつひとつ積み上げる方向性でよい**のではないか。具体的な数字目標設定より、全ての**事業者の輪を広げていく**ことがよいのではないか。

E委員：弊社では、去年のチェーンストア協会とともにレジ袋辞退率目標30%で声かけ運動を去年の7月から行っている。会社トータルで3月17.5%、9月19.9%の削減、6ヶ月で約2.4%アップした。ただ、当該店舗武蔵境店では、キャンペーン中の9月は1%上昇したが運動実施しているが大きい変化なく、消費者が慣れてしまったようだ。声かけ方法の工夫、マイバッグ持参のきっかけの作戦をねる必要を感じている。この辺りも提言書に盛り込んでどうか。また、弊社は来年度にISO14001認証を取得する準備中であり、店別に月ごとの計画を店長が作成中で、店ごとの目標設定がよいのではないか。また、一気に喫煙の罰金のように法でしぼられれば、日本全国一律で検討されてもいいのでは。

会長：容器包装リサイクル法の問題もありだ。消費者が声かけに慣れてしまう理由は？20%の壁？

E委員：買い回り品メインなのか、駅前、団地などの店舗の立地特性である。

B委員：駅前のB社は50%強だがこれはどうしてか。

会長：値引き方式が浸透している。

E委員：B社の場合、2円の値引きが効いているのかもしれない。

会長：スーパーでワンストップで買うのが食品、プラスアルファがあるのかもしれない。

F委員：B社は長い間やっているから浸透している。弊社のアルバイトも休憩時間等に袋を持って行っていた。慣れてくるとお菓子や飲み物を買うときも必ず袋を持って行って2円引きが当たり前になっている。気持ちの問題だ。

E委員：ネクタイを買い、袋を断ると20円引きの店も出てきているらしい。

I委員：今回のキャンペーンは自己満足かもしれないが、全体の底上げとしては成果ありと思う。続けてやっていきたい。A委員もおっしゃっていたが「流れを逃がさない」ためにキャンペーンが終わっても継続してやっていかなければいけないと思っている。やり方は考えなければいけない。また、先日の市長選でのマニフェストでは、あくまで候補者として出しているものだが、**市長としては有料化あるいは、協定によってのレジ袋削減をうち出している**。このレジ袋削減会議でも議論しているし、キャンペーンも実施しているので、その検証した結果を見て、委員からも提言が出るだろうからその辺を見て具体的に考えていこうと話をしている。実際、レジ袋の有料化等をするには、もう一度市民アンケートをしなければならない。アンケートでは有料化賛成が7、8割出ているが、実際は窓口で聞かれるのと紙で書くのは大きく違う。その辺を考え、市民・事業者にアンケートをとることや、市の商店会連合会や商工会議所に相談しなければならない。事業者懇談会はもちろんやらなければならない。また行政として踏み切るときには再度、他市の実態を調べなければならない。まずは、当会議でどのような方向で進めるかを提言していただき、最終的には行政が決める。市長の有料化という意見にとらわれることなく、つなげてやっていき、やれることを出していきたい。

会長：確かに70%を超える有料化賛成意見はあったが、一方でC社の聞き取り調査にあったように両極の意見があり、まったく強い反対の人もある。消費者だけにシワ寄せしないでほしいと。激安のジーンズが出ているご時世だから考えられないくらいの厳しい価格競争になってきた。ただ、私は、これで底上げがあったのか、なかったのかというと、あったと思う。**今の調査での底上げ根拠的なものがほしい**。それから、「きっかけ」があればレジ袋辞退率がとても高くなることもあるので、最終的に有料化にするにしても、金額の5円、10円は関係なく、2円の有料化でもいい。環境意識が定着しつつあるということもあるが、現実の厳しさもある。「マイバッグ利用者は多い」が「レジ袋が必要」という意見もある。この**必要性和グレーゾーン部分が底上げの鍵を握っている**。ここが50%を超えるあたりになるのかもしれない。そこをどうするかステップを作っていきたいと思う。手法や業態でやれるところからという「**ステップバイステップの方向付け**」が出せれば、いいのではないか。消費者も鍵を握っている。フードマイレージの農産物についての調査では、農産物の価値がわかるという軸とわからないという軸、金を払う軸と払わないという軸が

あり、5.4%が農産物に対する価値もわかり金も支払うという結果になった。消費者のパーセンテージが、期待される消費者が5.4%。その対極にある安ければいいという消費者は23%。意識と行動が分離している多数派が52.4%。金は払うが農産物の価値は不明という健康志向型の消費者、食の安全性に強い関心を持っている人が16.5%。環境意識が浸透し、消費者に広がっていて、いわゆる価値がわかるということだと思う。が、実際にお金を払うからという忍耐的の身体的負担も含めて、支払うかどうかということで、本当に消費者層が一番多いグリーゾーンがより高いところに来てくれば、有料化とは関係なくやれる。できるかどうか、アイデアが出ればという話だ。

A委員：今回のキャンペーンはまだ一ヶ月だが間違いなく効果はあったと思う。我々の店としても私のほうで、レジ袋に関する意識を変えるよう指示した。最後にお出した資料は、レジ袋辞退者を1名1名カウントした数字だ。今まではスタンプカード100円の逆算で出したが、スタンプサービスをあえて受けない方もいる。無くしてしまったり、途中の方もいる。少なめに数字が出るかと思ったが、実際カウントすると大きな違いはなかった。しかし9月締めたら45%の辞退率になっていた。これは一概に続くとは思わない。スタンプカードがたまり100円と交換した方が多かったと思う。3ヶ月連続で見ると、スタンプ倍にしたから倍になったということは信じがたい。もともと武蔵野店は私どもの店の中でも25%を越え、非常に意識の高い方がいらっしゃる店舗だ。尚且つそこに今回の市をあげてのキャンペーンを行い、プラスアルファは十分にあったのだろう。底上げのきっかけはあるのではないかと思う。店長さんは声かけを嫌がるが、がんばってやってほしい。店も一週間、レジ袋辞退者の実数カウントも協力してくれるようになり、これからだ。武蔵野店のスタッフは、武蔵野市で営業しているということは承知しており、他市在住のスタッフも武蔵野市のごみ問題でも協力するということはかなり定着している。かなりいいきっかけになっている。

会 長：売り手側がそのような働きかけをしてくれるとすばらしい。

A委員：6時以降のお客様にどう対応するか。武蔵野店はあまり該当しないのだが、駅中にある店舗ではかなりの客数が、夕方や朝に特殊な動きがある。そういう通勤男性を中心とした客層が本当にマイバッグを持ってきていただけるのかということが、まだまだアプローチ不足。それを言い訳に使っていると言われるが、その辺ももう少し考えたい。主婦は本当に協力してくれている。具体的なアプローチをいろいろアドバイスいただき、参考にしたい。必ずその辞退率は落ちるから、有料化していても落ちる。確かに我々も意識が足りなくてレジ袋をどんどん配っている形なのだが、安全に商品を持って帰っていただくために必要ではないかということも、もと

もとある。コンビニで温めた弁当や刺身を手で持って帰るわけにはいかない。全部レジ袋という理解はしておらず、減らさなければならないことは事実だが、現状では有料化でいくのは難しいと思う。

G委員：今までの話を聞き、いきなり有料化と強制的に進めるより、きっかけを与えれば底上げになるのは間違いないという気はしている。そのきっかけとして、事業者と市役所が自主的な協定を結び、スーパーが各店舗で独自に取り組んでおられる分をとりまとめて、市全体として活動や動きを評価する。そうするとスーパーも現在ポイント制などさまざまな取り組みをしており、それはそのままの状態に協定に参加できる資格は十分にある。そこを認め、尚且つ、いま全く取り組んでいないところは、声かけだけでも新たなポイントでも値引きでも、それも参加していただけるような協定のしくみ。そうすると店側も協定に参加している、レジ袋削減に取り組んでいる、市も認めているお店ということで、消費者へ「環境活動に協力しているお店」と営業活動に使える。そのような形だと事業者の皆さんは、参加しやすいのではないか。自主的な協定、なるべく多くの事業者が自主的とはいいいながら極力参加していただくというのがいい。きっかけという意味では、リピーター客の男性でも周りがマイバッグを持ち始めると習慣になり必ず増えてくると思う。レジに並ぶ数の問題だと思う。コンビニでも自分の前の客がマイバッグを持っていると自分も持とうという気もする。そうするとお店でもレジ袋を使う量が減るからいちいち聞かなくても減るのではないか。レジ袋使用量が減ってくれば、ますます持参率が上がりそれが当たり前になってくる。それには当然時間もかかるし、継続的な努力が必要だという気はするので、その火を消さないためにも強制的ではなく、いつでも参加できるほうがよい。ただそれには審査なり、最低限やってほしいことを取り組んでもらい、報告に関しては制度を作る中で検討いただくのがいいと思う。

E委員：紙袋から替わってレジ袋が出たのが 1975 年頃。人件費削減のためにレジの係を 2 人から 1 人にし、自分でレジ袋に入れるレジ袋方式に変更していった。その頃は 100%袋を渡している。そして 35 年経ってやっと 20%ぐらいレジ袋の辞退率に。その 20%をよしとするのか。チェーンストア協会では 30%目標と、30%いったらよくできたとするのか。もしくは、他の事例のように 60%とするか。そこをどう決めるかも 1つのポイント。**その手段として目標 60%に決めたとしたら、それは有料化しかないと思う。**有料化する、しないではなくて、目標数値によって有料化をせざるを得ない。でも 60%が本当にいいのか。今、35 年かかり、やっと 20%まであがってきたのだから、**あと何年で何%にしようかという努力目標**でもいいと思う。

F委員：事業者側の話だが、レジ袋を会社で使い始めて 10 数年。最初の頃と比べると重さが 3分の1だ。同じだけ枚数を配っていてもCO<sub>2</sub>は 3分の1削減された。ごみの量

としても 3 分の 1 削減されたが、薄くするにはこれ以上は厳しい。最終的に**小売店ができることは、消費者の方の教育やお手伝い**。消費者が断るか金を出すかは、最終的には消費者が決める。最近は言われないが、**グリーンコンシューマーをどこまで増やせるか**。小売企業の従事者は全国で 15% ぐらいいるから、少なくともその人々にはマイバッグを持つことから始め、その家族にはみんな持ってほしいし、役所もその家族にもマイバッグは持ってほしい。そのような行動を始めることによって半分ぐらいの消費者はできるのではないかと思う。

会 長：先ほどの G 委員の話にも繋がる。伝えるということ。

F 委員：最終的には決めるのは消費者であり、私たちはそのお手伝いをするスタンス。

会 長：小売の従事者は 600 万人ぐらいか。

F 委員：小売従事者はアルバイトが多い。そこまで入れるとだいたい 15%。学生だと半分ぐらい小売のアルバイト経験があるのではないか。

H 委員：消費者としては、自分は D 社を使っていて常連だ。エコポイントがもともと 3 ポイントつくのでみんな袋を持っている。市内の農家の人が野菜を納めているが午後はほとんどない。たまたま買えた時に、市からのエコポイントがついた上に 1 円ももらった。キャッシュバックと値引きは違うと私は思う。値引きとなると小さな買い物をする人でも袋要らないという人が多いと思う。武蔵野市だけではなく、東京都で取り組んでくれるといい。弊社ではおでんの 70 円均一というのをやっていて、すごく売れる、みんな鍋を持ってくる。鍋を入れる袋がないのをお客さまも分かっている、袋も持参してくる。お客さまの教育がされているのかと思いうれしい。5 日間のセール期間中、容器を洗って持ってくる人もいる。マイバッグ率、容器再生率が高い。今回のセールで感じたことは、今までは容器を用意しないと売れないからバックルームは半分ぐらい容器で埋まってしまう。それが今回は減っていないから驚いた。これは武蔵野市全体の効果も出ているのかと嬉しくなった。あと、レジ袋でなくてもいいというお客様用に再利用紙袋を用意したら、すごく評判がよくていろいろなお店の紙袋をお客様が用意してくれた。みんな喜んで使っている。そのような**小さなエコから始められる**といいと思う。

I 委員：G 委員が言われた**協定方式で評価をする**というのは非常にいい。自主参加ということで、条例では罰則をつける等いろいろあるが、条例にせず**要綱で協定を作った場合**、事業者として参加はどうか、コンビニでは。

H 委員：全国チェーン、全国展開であるから一斉でないでだめ。

G 委員：要綱という文書が出るので、それを本部に送れば要綱ならいいのではないか。

H 委員：かなりきびしい気もする。

A 委員：内容による。例えば、有料化で 60% という目標が入った場合は抵抗があると思う。

我々事業者が一番気にしているのは、自分だけやって客数や買い上げ単価の減になったりして、マイナス要因になることを恐れている。やるならばみんなで手をつないでやりたい。具体的な数字を入れるとまとまりづらいかもかもしれないが、みんなが合意できるような線というものはあるかもしれないし、数字がなければ検討はできるのではないかと思う。

I 委員：選択肢である。有料化、値引きといろいろあって、事業者に目標を作ってもらえばいい。

A 委員：事業者の判断があって、20%がだめ、50%というようなことでなければいいのではないか。

E 委員：弊社の場合は、神奈川県に5店舗あるが店舗別に目標数値は全部違う。ある店舗では現状が13%くらいだから14%ぐらいにしよう、ここは20%いつているから22%ぐらいにしようとか各店舗で削減率の目標を定め神奈川県と協定を結んでいる。年1回の報告をしている。それは弊社が独自に先行してやっていることをそのまま協定として結んでいるだけ。無理なくできる。

G 委員：先ほどのH委員のお店の紙袋を使った、**独自の取り組みのようなものも評価**してそのやり方で参加できるような形にすれば、裾野は広がるのではないか。

I 委員：グリーンパートナー事業は、お店でできることをやってもらうということで何%してください等は一切言っていない。生ごみ資源化等を行っているオフィスやデパートのようなエコパートナーは、19店舗ある。エコパートナー優良店という認定証をお店に貼っている。

副会長：そのような店の取り組みを市報などに載せたほうがいい。

C 委員：市民が知らなかったら貼ってあっても意味がない。私は知らなかった。

事務局：グリーンパートナーもエコパートナーもお店をアピールする道具として使っていたきたいということで登録してと、伝えているが、市民は「こんなことしてる」「えらい」とはなかなか思っただけではない。市報には載せてはいるが、200店舗くらいあるから細かくなってしまう。

C 委員：店舗を載せるのではなく、そのシールがどのような意味でお店に貼られているのかということのを先に載せないと分からない。

事務局：グリーンパートナーのお店では、このような取り組みを行っているという認定証を差し上げているが、アピール度が足りない。

F 委員：賞状だと店に貼り難い。事務所などに貼られている。

C 委員：そうすると働いている人しかわからず、お客さんには見えない。

会 長：先ほどE委員よりISO14001認証を取られるとのこと、まさにISOのしくみ作りだ。そういう面では目標が最初にあるのではなく向上して行く義務、努力目標は必要だ。

要綱、協定のしくみを作っておき、そこに参加し目標を掲げて努力するという形になるといい。レジ袋 ISO か武蔵野にひっかけた要綱等の意見も出てきたが、他にないだろうか。

C委員：コンビニに買い物に行ったときに、袋を用意してくれていたところにタイミング悪く要らないと言ったにも関わらず、「ご協力ありがとうございます」と言ってくれた店員さんがいた。他店では嫌な顔をされそうだが、逆にお礼を言われた。声かけを協力するという店舗は「袋、要る、要らない」だけではなく、その後の一言もできたらいいと思う。お客としては、次も袋を断ろうという気になる。

副会長：袋を開いてしまうとお店のほうで捨てることになってしまう。

F委員：スーパーなどのお客さまに渡すときは、開いたら捨ててしまうのではないか。コンビニは店員が入れる。スーパーだとぐちゃぐちゃになったものは渡せない。

A委員：そうだ。戻された袋は、すぐには使えない。自分の場合は、袋が余るとインフォメーションに返す。

E委員：スーパーの場合、一度出したら原則捨てる。中に異物でも入っていたら困るから。そちらのクレームのほうが怖い。

会 長：ありがとうございました。貴重な意見をいろいろ出していただいた。報告も含め、充実させ提言の方向付けをもう 2、3 歩進めたいと思う。また事前に配布されると思うのでご意見いただきたいと思う。(3) その他の①について説明願います。

事務局：任期の延長について、前回もお話させていただいたが今の任期は 1 月までになっている。キャンペーンが 11 月までになっており、12 月の委員会で報告を出すという形を予定している。1 月の委員会で最後という形になってしまうのだが、延長はしていただけるかという確認をしたい。

事務局：報告書をまとめる時間も必要なので、区切りのいいところで 3 月までをお願いしたいのだが、皆さんよろしければ。

会 長：その範囲で提言をまとめる形か。今の進行で行った場合に、2 ヶ月くらいの延長をお願いしたいということだがいかがか。これはこのようなこともあり得るということでもよろしくご協力お願いしたい。長時間に渡り貴重なご意見ありがとうございました。

## ○今後の日程

今後の会議日程 11 月 27 日（金）午後 2 時から

12 月 18 日（金）午後 2 時から

閉 会